

合志市総合健康センター「ユープレス弁天」



温泉熱の給湯利用

熱交換器を使って、温泉熱（浴用利用の余剰分）で上水をあたため、給湯に活用しています。



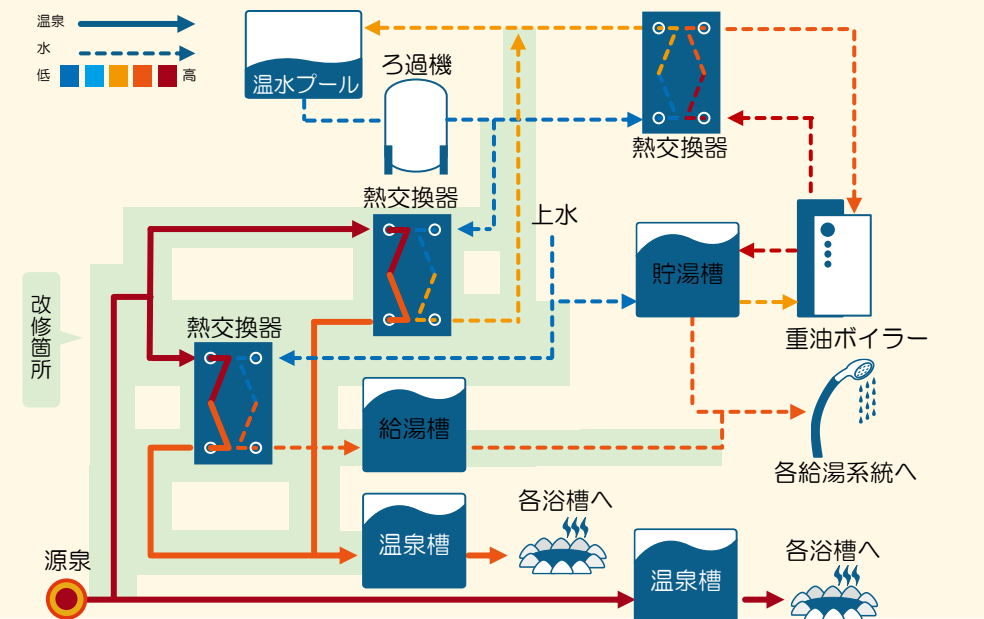
概要

64℃の源泉を熱交換し、シャワーの給湯及びプールの昇温に利用している。かつては浴用利用のために高温源泉に加水をする一方で、シャワーの給湯やプールの昇温に大量のA重油を使用していた。ボイラーの故障をきっかけにエネルギーコストの見直しの必要があることが分かり、温泉熱利用の検討を始めた。近隣事例の情報収集や導入先への視察等積極的な調査を行うことで、温泉熱についての知識を拡充するとともに、不安の払拭にもつながり事業実現となった。

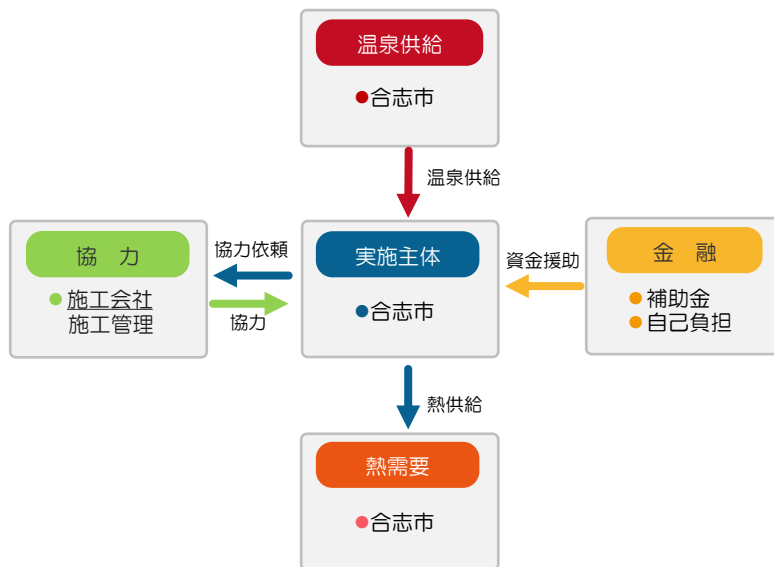
事業者名	合志市
所在地	熊本県合志市
泉質	ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩泉
温泉温度	68℃
熱利用温度	64℃
事業開始	2021年
総事業費	79,600千円



主な温泉熱利用方法のシステム



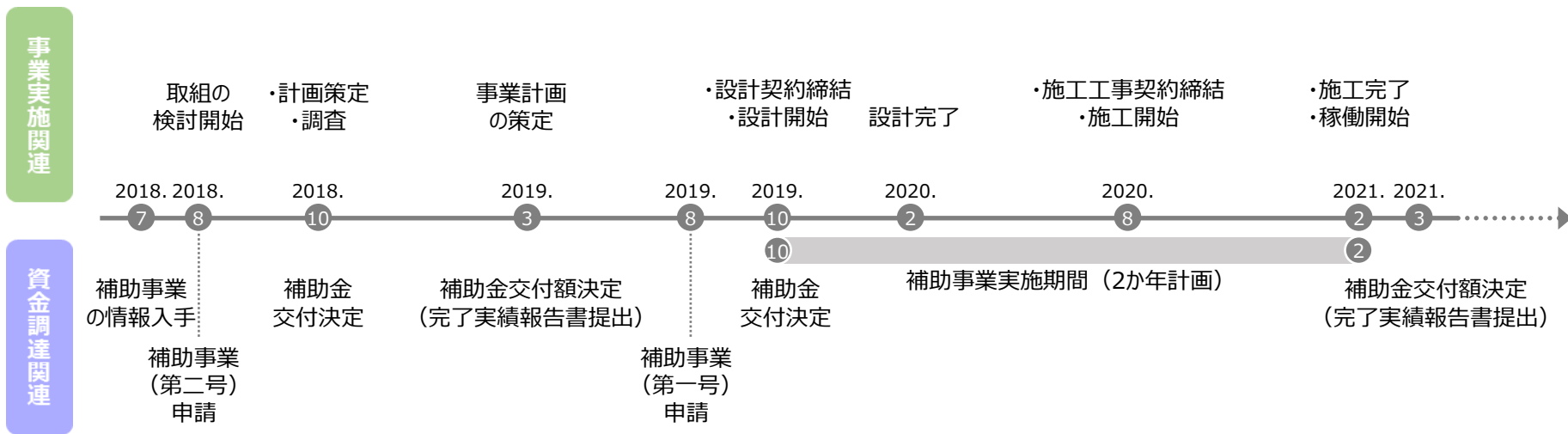
実施体制



合志市総合健康センター「ユープレス弁天」



事業検討の流れ

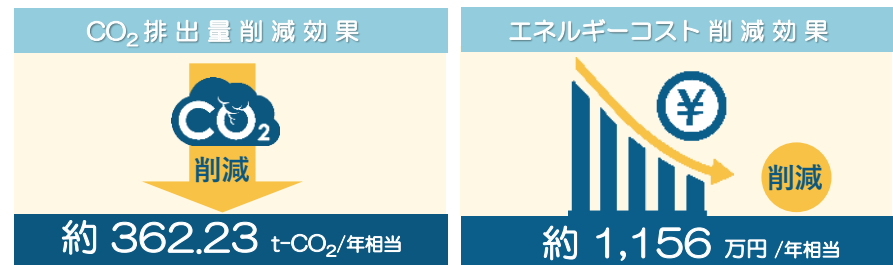


事業実施の際の課題と解決策

課題発生時期	課題	解決策
設備導入時	<ul style="list-style-type: none"> 市単独の予算での実施、設備工事だけの施設休止が困難であった 温泉成分に金属が含まれていた 	<ul style="list-style-type: none"> 補助金を活用し、他の大規模工事のタイミングに合わせた 専門家からの意見を参考にした(現在はメーカーに相談しながら管理している)
補助金利用検討時	<ul style="list-style-type: none"> 施設の運営状況に応じた設備フローの決定に苦労した 	<ul style="list-style-type: none"> 設計事業者との綿密な打ち合わせにより運用状況の把握を行った
補助金申請時	<ul style="list-style-type: none"> 提出書類が多かった 容易に準備できない提出書類があった 	— (特になし)
補助金採択後(事業実施中)	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者と市との意識の違い(計測する上で削減効果を意識するかどうか) 	— (特になし)

主な効果

- 市のCO₂削減アクションの一つとなっている



※: CO₂排出量削減効果とエネルギーコスト削減効果は補助事業実績報告書に基づく。

今後のビジョン

- 温泉熱利用割合の増加
- 県内における導入の先導的な役割として、温泉熱の自立的普及促進に向けた横展開を図る